

3.シーリングのポイント

1.モジュラスが低いものを選定する。

シポレックスパネル目地間および他部材との取合い部に用いるシーリング材には、モジュラスが低いものを選定してください。
モジュラスが低いものは、経年時の50%引張応力0.3N/mm²以下のものを目安としています。
モジュラスが高いものを採用した場合、シポレックスパネルの目地部にひび割れなどの損傷を生じる可能性があります。

2.パネル取付構法および表面塗装の有無とシーリング材種類の適否に留意する。

シーリング材の選定にあたっては、パネル取付構法およびシーリング材表面塗装の有無による適否に留意してください。
シーリング材の耐久性区分によるシーリング材の種類と選定の目安を下表に示します。

シーリング材の種類と選定の目安表

○：適 △：事前検討が必要 ×：不適

構 法	シーリング材 表面への 塗装の有無	耐久性区分 注1						
		7020	8020		9030			
		アクリル系 (AC-1)注2	1成分形 ポリウレタン系 (PU-1)	2成分形 ポリウレタン系 (PU-2)	1成分形 変成シリコーン系 (MS-1)注3	2成分形 変成シリコーン系 (MS-2)注3	2成分形 アクリルウレタン系 (UA-2)	
縦 壁	SDR構法	有	×	○	○	△	△	○
		無	×	×	×	○	○	×
横 壁	SDR構法 (横壁アンカー構法)	有	×	○	○	△	△	○
		無	×	×	×	○	○	×

注1：表中、シーリング材の耐久性及び主成分の記号は、JIS A 5758:2016(建築用シーリング材)の「主成分、製品形態及び耐久性による区分」による。

注2：住宅の瑕疵担保責任保険の加入条件は、シーリング材の耐久性区分が8020以上とされています。

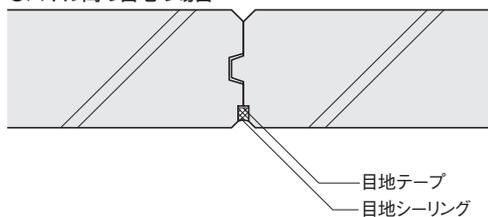
注3：シーリング材の表面に仕上げを施す場合には、汚染について事前に検討してください。

3.ワーキングジョイントとなるパネルの目地は、二面接着とする。

シポレックスSDR構法など変形追従性能の高い取付構法によるパネル間の目地や他部材との取合部などの伸縮目地は、ワーキングジョイントになります。

ワーキングジョイントには、SDR構法用のボンドブレイカーを張る又は、バックアップ材を充填するなどしてシーリング材を二面接着とし、目地部の変形に追従できるようにする必要があります。

●パネル間の目地の場合



4.シーリング材の標準仕様を遵守する。

シーリング材性能を確保する為にプライマー等は、シーリング材メーカー標準仕様を遵守してください。

仕上げと防水

外装仕上げ